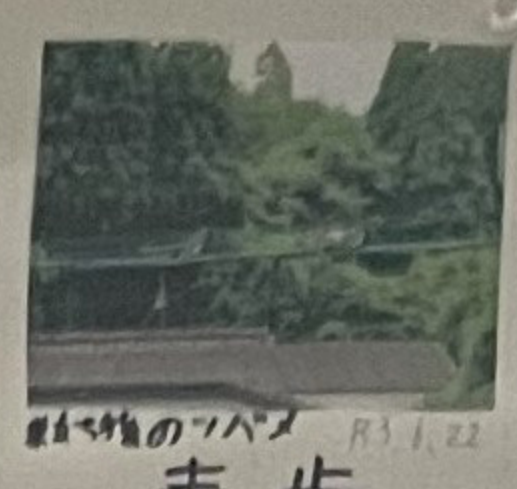


ツバメの生態・子育て観察 パート2



和水町立菊水小学校 五年 坂梨 竜歩

1. 研究の目的

ぼくは、野鳥が好きで、家族と一緒に鳥を観察している。初めて家の軒下でツバメが子育てをしているところを観察し、記録を続けてきた。ツバメは環境の変化で数が減っていることを知り、家で子育てをしていれて、うれしかった。しかし、家の近くにはのらねこや1匹、カラス、トビなどのツバメの天敵が多く、守ってあげたり、子育てをがんばってほしいと思うようになった。ぼくや家族が家の近くを通ることや、観察することが天敵からツバメを守ることに役立つと分かったため調べることにした。観察の中で疑問に思ったことは実験や観察で調べることにした。

2. 方法と内容

- ・庭や納屋でツバメを観察記録
- ・3年間の子育て比べ
- ・疑問に思ったことは {調査 実験 観察} で解決

4. 疑問調査

Q. 雨の日、ツバメは電線に止まって上を向いている。雨にぬれるのはなぜ?

予想 水のていこうを防ぐため 濡れたツバメの向きがちがいでぬれ方がどうちがうか。

材料・方法

- ①アルミホイルでティッシュを包んで、ぬれてツバメの形を作る。
- ②つまようじをさし、電線に見たて。
- ③発泡スチロールに固定し、ほうで、同じ距離から水をかける。
- ④ついた水滴の粒数を数える。ティッシュでふき、ぬれた水の水分量のちがいをみる。

結果

	上向き	正面	下向き
ぬれ方			
水滴数	2	5	4
ついた水分量			

考察 上向きが一番ぬれなかった。(1)つも雨の時、ツバメが上を向いているのは、体がぬれにくいように雨を交差よく流すためだと考えられる。雨が止んだら羽づくろいをしていたが、調べてみると、鳥は脂分を出し羽毛にぬって羽づくろいする。そして、防水性を高めているようだ。また、ツバメが木で雨宿りしないのは、木に止まるような足の形をしていないからだろう。少数の時のツバメは軒下で雨宿りすることもあるようだ。

Q ツバメは夜どこで眠るの?

予想 家族で決めた電線に眠る。

調査観察 昨年、電線に居眠りしているところを見たので電線だと思っていたが調べてみると、夜は川のアシ原で眠っている。野鳥の会の方にもいじみするし、坪井川遊水地では数千〜数万羽のツバメたちが飛び回り、アシ原にねぐらにしている。川のアシ原だけでなく泗水町田島では飼料用トウモロコシの畑もねぐらになっていることが分かった。

5. まとめ

うちで巣作りをしたツバメだけに注目して観察してみると特徴や生態を図かんにのっていないことまで知ることができた。最初、ツバメはかわいいなと思いつつ観察していたけれど、ツバメを知っていくうちにツバメはすごいという思いに変化し、多くのツバメが子育てをして、数が増えてほしいなという思いで研究した。3年間を比べて巣作りやふ化の時期が早ま、ということから、温暖化のせいもあるかもしれない。環境を守ることに大切だと思った。ツバメが安心して巣作りができるように農地や水田を守ること、地域環境保全に取り組んでいきたい。また、来年もうちで子育てを続けてほしいし、観察研究を続けていきたい。

6. 今後の課題

来年は、ツバメの巣が落ちないようにするために、巣の下に小さな板を付けてみようと思う。大きな板だと、カラスも止まってしまうので、アサギの巣が落ちないというのを参考に、親鳥がいなくて、巣の下に板を付けてみよう。人の手を加えるという事は、よくない。しかし、さうすれば、巣作りができるような環境がへっているのは、人間が原因なので、巣作りできる環境を守ることは必要だと思ふ。

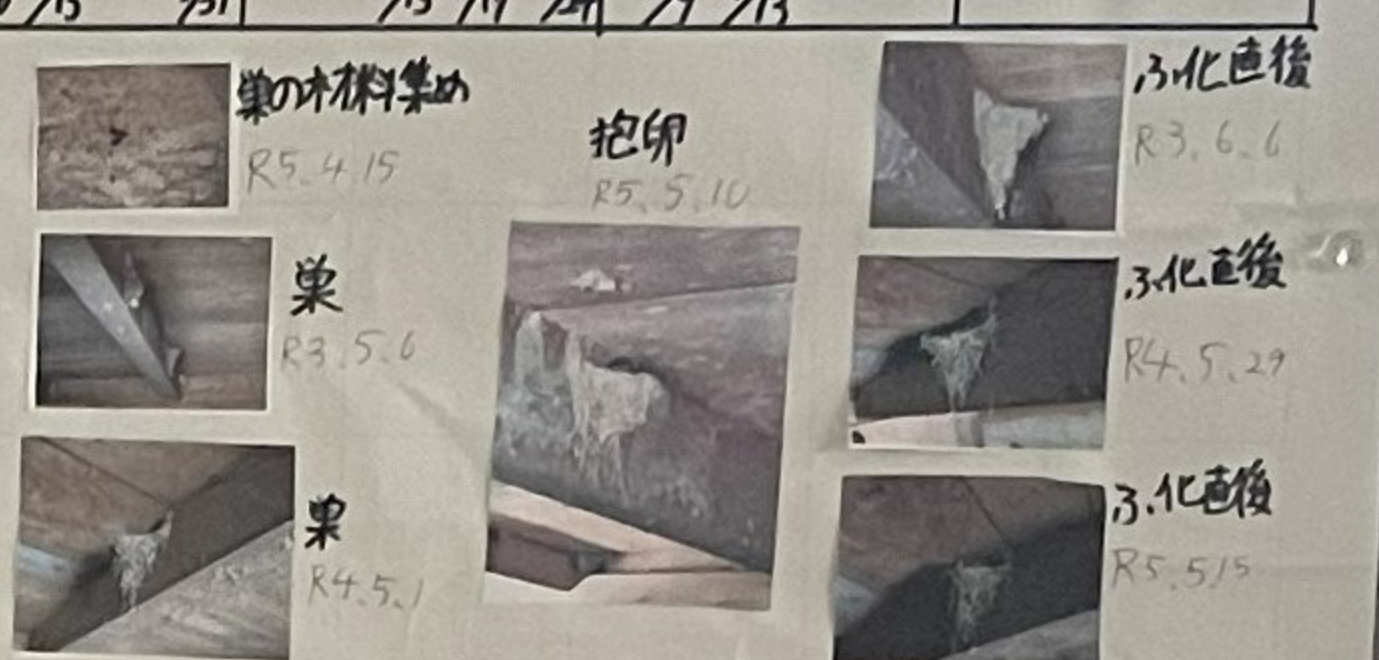
3. 結果

<3年間の子育て>

年度	4月	5月	6月	7月	8月
	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下
令和3年		1卵 交尾 抱卵	3卵 単立		
(2021)		5/15 5/11	5/6 5/9		
令和4年	1卵 交尾 抱卵	3卵 単立	5卵 単立	5卵 単立	5卵 単立
(2022)	5/15	5/14 5/19	5/14 5/20 5/20 5/20	5/20	5/20
令和5年	1卵 交尾 抱卵	3卵 単立	5卵 単立	5卵 単立	5卵 単立
今年	(2023)	5/15 5/15 5/15	5/15 5/19 5/19	5/19 5/19	

ふ化数と巣立ち数

年度	1回目	2回目	巣立ち
令和3年	6→5		5
令和4年	5→5	3→3	8
令和5年	5→3	3→0	3



考察

- ・1回目は全て古巣のリフォームで、子育てをしなかった。今年は、巣が落ちてなくとも、2回目は新しく巣作りした。巣作りの時期は、早くなっている。おそらく、温暖化や、異常気象により暑い日が早く来ることで子育てを早めているのかもしれない。また、リフォームで、時間をかけて巣の強度を高くしていると考えられる。
- ・今年の2回目は、新しく作ったにも関わらず巣作り期間が短く、柱の表面が平らであったため、途中で落ちてしまったと考える。
- ・守るためには支える底板をつけるなどの落なり工夫も必要。巣作りや巣を見るし、田植え前の土や庭のどろ水、わで作られていることが分かった。
- ・昨年までのツバメの家族は毎朝、巣の近く、プランタの前の電線に並んでいたが、今年の家族はあまり止まらず、20mは離れた電線に止まることが多いので警戒心が強く、ちがうツバメだと思われる。
- ・産卵数は一般平均で、5〜6個。今年度のふ化が5羽だった。そのうち巣立ったツバメは、3羽であることから、昨年度2回目と同じ巣を使っており、途中でふさがせまくて落ちた可能性がある。

